

総 説

医療看護研究26 P.48-56 (2020)

健康障害を伴う子どもの母親の心的外傷後成長に関する国内文献レビュー

Posttraumatic Growth of Mothers Who have Children with Health Disorders : A Japanese Literature Review

笠井 由美子¹⁾

KASAI Yumiko

西田 みゆき²⁾

NISHIDA Miyuki

要 旨

本研究は健康障害を伴う子どもの母親の心的外傷後成長を明らかにすることを目的に、医中誌Web、CiNiiのデータベースを用いて検索を行い、国内20件の論文を対象に文献検討を行った。健康障害を伴う子どもの母親の心的外傷後成長は、子どもの健康障害に関する危機的な出来事の後に、【手探り状態の中での挑戦】、【子どもの将来の見通しに関する苦悩】、【やりきれない思いの中での自責の念】といった挑戦と後ろ向きの感情の間の揺れ動くもがきが生じる。そのもがきの過程で、【子どもへの理解の深まり】【子どもから必要とされている感覚】といった直接的な確証と、【自分のことを理解している周囲の支え】【肯定的フィードバック】の影響により、【親役割の成長】【子育てへの自信】【人間としての成長】といった母親としてのポジティブな成長や人間としての成長の心理的な変容体験を経ている。

孤立しやすい子育て環境や子育てに関する不確かさを抱く現代の日本の社会的背景や謙遜の中に成長をみるような文化は、子どもが健康障害を伴う危機的な出来事が生じた場合、心的外傷後成長のプロセスに影響を及ぼすことが示唆された。

キーワード：心的外傷後成長、母親、健康障害、文献レビュー

Key words : Posttraumatic Growth, mother, health disorder, Literature Review

I. 緒言

近年、核家族化や少子化の社会背景から、かつては家族や地域社会の中で日常的に伝承された育児の知識や知恵を得る機会が少なくなっている。このような変化に伴い、母親たちは子どもとの接触経験や育児経験が不足しており、乳幼児を知らないまま親になる場合も増加しており（原田、2006）、子育てのスキルに自

信がなく、自分や子どもに対して描いていたイメージとは異なる現実と直面し、一人で子どもの世話をすることに苦痛を感じている母親も存在する（大日向、2002）。よって、病気や障害などを持つ健康障害を伴う子どもの育児においては、さらに困難でストレスを抱くことは容易に推察できる。低出生体重児や小児がんの母親においては、心的外傷後ストレス障害が生じるという報告もある（松本 他、2006；Yonemoto et al., 2012；AflykaA et al., 2017）。また、子どもが退院した後も自責の念を継続しつつ子育てしている母親も存在し（Shahirose S et al., 2017；横田 他、2014；Holditch-Davis. et al., 2003）、我が子の健康障害は、

1) 順天堂大学大学院医療看護学研究科博士後期課程
Doctor's Course, Graduate School of Health Care and Nursing,
Juntendo University

2) 順天堂大学大学院医療看護学研究科
Graduate School of Health Care and Nursing, Juntendo University
(May 7, 2020 原稿受付) (Jul. 22, 2020 原稿受領)

母親に否定的な心理的反応を引き起こす。

一方で、近年、新生児集中治療室を退院した子どもをもつ親や我が子が小児がん罹患した体験をもつ親のポジティブな心理的变化が報告されている (Aftyka A, et al., 2017; Hulmann SE, et al., 2014; Forinder U et al., 2014)。このようなポジティブな変化は、1980年代から心理学・医療・社会学領域において心的外傷後成長 (Posttraumatic Growth: 以後PTG) として報告されており、「危機的な出来事や困難な経験による精神的なもがき、苦悩の結果生じるポジティブな心理的変容の体験」(Tedeschi RG et al., 2004) と定義され、結果でありプロセスである。人生を揺るがすような様々な辛い出来事を経験した人が精神的なもがきの結果として、他者との関係・新たな可能性・人間としての強さ・精神的 (スピリチュアルな) 変容・人生への感謝の5つの成長で構成されている (Tedeschi RG et al., 2004)。

国内の健康障害を伴う子どもの母親のPTGの先行研究は、小児がん経験者の親のPTGの生起が子どもの臨床的特徴や親の不安レベル、心的外傷後ストレス症状に影響すること (Nakayama, et al., 2016; Yonemoto, et al., 2012) やPTGの構成要素 (入江 他, 2018) に焦点を当てた報告、自閉症スペクトラム児の母親を対象とした研究 (石本 他, 2014) の報告しか見当たらず、文化的背景の影響が示されているPTG (Calhoun LG, et al., 2006) において、我が国の文化を踏まえたPTGの概念を示すには至っていない。そこで本研究では、国内の先行文献から、子どもの健康障害における危機的な出来事や困難な体験時の母親の思い、ポジティブな心理的变化の内容、その変化の過程で影響したことを明らかにすることで、健康障害を伴う子どもの母親の体験に関するPTGのプロセスを抽出することを目的とした。

健康障害を伴う子どもの母親が危機的な体験後に、前向きな考えに至った過程で何が影響するかが明らかになれば、健康障害を伴う子どもの育児をする母親への有効な支援を検討できると考える。

II. 目的

本研究の目的は、我が国の健康障害を伴う子どもの母親の心的外傷後成長 (PTG) を明らかにすることである。

III. 方法

1. 対象論文の抽出

対象とする論文は、医学誌Web、CiNiiのデータベースを使用し、「心的外傷後成長」and「親」and「成長」または「体験」をキーワードに設定し、2000年から2020年までに発表された文献を検索し、215件抽出した。そのうち、健康障害を伴う子どもの母親に関する文献を抽出したところ、文献数は32件となり、母親の前向きな考えに至った過程や影響した内容が記述されている文献16件を分析対象とした。データー検索に加えて、検索した引用文献から目的に合致すると判断した論文を4件ハンドサーチし、合計20件を対象文献とした。Pub Medで「posttraumatic growth」「parents」「japan」をキーワードとする日本の文献を検索したが、本研究に適する文献は見当たらなかった。

2. 分析方法

選出された文献を精読し、Calhoun, C et al.のPTGの理論モデル (2010 宅 訳 2016) を参照に分類した。このPTGの理論モデルは、PTGの引き金として必要不可欠である「信念や世界観を揺るがすような破壊的な出来事」が前提条件である。また、その破壊的な出来事により、耐え難い精神的苦痛を伴いながら、熟考や反芻、自己分析や自己開示、社会や文化の影響を受けることで、PTGへつながると示している。本研究は、心理的変容の内容過程で影響したと思われる部分にも着目して抽出していくため、PTGモデルを参照することは有用だと判断した。

対象文献を精読し、「子どもの健康障害に関する危機的な出来事や困難な体験時の母親の思い」、「ポジティブな心理的变化に影響した要因」、「ポジティブな心理的变化」を原文に忠実に抽出した。その後、各文献が示している知見を集積し、意味内容の共通するものをコードとして簡潔な言葉や文章で表し、類似性のあるものを集め、サブカテゴリー、カテゴリーとに分類した。

3. 倫理的配慮

対象文献を精読し、目的に合致した部分を抽出する際には、対象文献の著者らの本来の意味内容を逸脱しないよう十分配慮した。

IV. 結果

文献検討した結果、健康障害を伴う子どもの母親の

心理的変化のプロセスの構成要素として10のカテゴリーが抽出された。「子どもの健康障害に関する危機的な出来事や困難な体験時の母親の思い」、「ポジティブな心理的変化に影響した要因」、「ポジティブな心理的変化」の3つに分類し、各カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを《 》、コードを〈 〉で示した。

1. 子どもの健康障害に関する危機的な出来事や困難な体験時の母親の思い (表1)

子どもの疾病の告知や子どもの辛い治療、母親がどうにもできない状態の時期の母親の気持ちであり、【手探り状態の中での挑戦】、【子どもの将来の見通しに関する苦悩】、【やりきれない思いの中での自責の念】の3つのカテゴリーで構成され、挑戦と後ろ向きの感情の間の揺れ動くもがきが抽出された。【手探り状態の中での挑戦】では、〈自分なりの方法を見いだす努力の繰り返し〉や〈手探りな状態の中で情報を取得〉するなど《答えを見いだそうとする行動》があり、《親としての挑み》といった〈親として精一杯頑張らないではいけない〉や〈笑顔をつくってあげたい願望〉

が抽出された。また、〈無我夢中で日々の生活を乗り越える思い〉や〈無理して頑張る〉といった《責め立てられる思い》や《心身の疲弊》が抽出された。

【子どもの将来の見通しに関する苦悩】では、〈今後の子どもの将来が想像できない不安〉という《先の見えない不安》や不安に伴う《見通しに関する動揺》やその状況を《受け入れられない辛さ》が抽出された。

【やりきれない思いの中での自責の念】では、《自責の念》、《子どもへの謝罪》や〈いろいろなことが限られて思うようにならない経験〉という《親として満たされない思い》が抽出された。また、〈不安を抱え込む〉〈自分だけ苦しいという孤独〉といった《母親の孤独感》も抽出された。

2. ポジティブな心理的変化に影響した要因 (表2)

挑戦と後ろ向きの感情の間の揺れ動くもがきが生じる中で、ポジティブな考えに至った過程で影響した要因であり、【子どもへの理解の深まり】【子どもから必要とされている感覚】【自分のことを理解している周囲の支え】【肯定的フィードバック】の4つのカテゴリー

表1 子どもの健康障害に関する危機的な出来事や困難な体験時の母親の思い

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	著者	
手探り状態の中での挑戦	答えを見出そうとする行動	自分なりの方法を見いだす努力の繰り返し	石井, 2019: 細谷, 2019 田中, 2018: 山内, 2017 松井, 2016	
		子どもと向き合う		
		手探りな状態の中で情報を取得		
		子どもの体調管理が難しい中での方法の工夫		
	親としての挑み	親として精一杯頑張らないではいけない	田中, 2018: 伊藤, 2018 松浦, 2017	
		笑顔をつくってあげたい願望		
		家族らしいことをしたい願望		
	責め立てられる思い	無我夢中で日々の生活を乗り越える体験	杉本, 2019: 細谷, 2019 田中, 2014	
		無理して頑張る		
	心身の疲弊	やり続けなければいけない自己との格闘	松浦, 2017: 伊藤, 2018	
受け止められず、気持ちがつかない状態				
子どもの将来の見通しに関する苦悩	先の見えない不安	心身の疲弊	石井, 2019: 松井, 2016 新田, 2012: 松浦, 2017 伊藤, 2018: 前盛, 2014 伊藤, 2018: 松浦, 2017	
		今後の子どもとの生活に対する先の見えない不安		
	見通しに関する動揺	子どもが想像できない不安		
		障害を疑う気持ちと打ち消す思いの揺れ動き		
	受け入れられない辛さ	ポジティブ、ネガティブな体験の揺れ		
		我が子がどうなるかわからない恐怖		
やりきれない思いの中での自責の念	自責の念	子どもがどうなるかわからない葛藤	伊藤, 2018: 松浦, 2017	
		子どもに与えられている辛さ		
	子どもへの謝罪	障害にとらわれて子どもを受け入れられない辛さ		
		早産したことへの負い目		
	母親の孤独感	これまで行ってきた子育てへの自責		伊藤, 2018: 田中, 2014
		子どもの病気は自分のせいだと思う罪悪感		
親として満たされない思い	不安を抱え込む	新田, 2012		
	自分だけ苦しいという孤独			
親として満たされない思い	親として満たされない経験	伊藤, 2018: 一瀬, 2007 松浦, 2017		
	いろんなことが限られて思うようにならない経験			

表2 ポジティブな心理的变化に影響した要因

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	著者
子どもへの理解の深まり	子どもの特性や行動の理解	子どもの特性を理解することができた	石井, 2019: 細谷, 2019 杉本, 2019: 伊藤, 2018 松井, 2016: 田邊, 2010
		子どもの病気に対する理解が深まった	
		子どもの行動の意味が分かった	
		頑張る子どもの姿を見守る	
	子どもの成長を発見	子どもの頑張る姿から成長するを実感	杉本, 2019: 石井, 2019 勝田, 2018: 田中, 2018 山内, 2017
		子どもなりの成長に気づく	
		我がらしさや子どもの好きなことが分かる	
		成長を実感する安心や喜び	
子どもから必要とされている感覚	子どもの状態を維持できた体験	子どもの状態に対応でき安定させることができた	杉本, 2019: 田中, 2018 前盛, 2018
		子どもの元気な状態が維持できた体験	
	子どもにとっての自分の存在に気づく	子どもの役に立ったという体験	石井, 2019: 細谷, 2019 田中, 2018
		自分が変化したことで子どもも変わることを実感 子どもにとって特別な存在であるという気づき	
自分のことを理解している周囲の支え	同士から共感を得られた体験	交流の中で、傷つきや不安、焦りを共有	伊藤, 2018: 松井, 2016 前盛, 2014
		同じ境遇の母親と悩みを共有	
		同じ境遇の母親と大変な子育て体験の共有	
	ロールモデルの存在	他の母親から自分の見通しを得る	田中, 2018: 松井, 2016 前盛, 2014
		同じ経験をしている人からの助言	
		他の母親から自分の見通しを得る	
		似た状況に置かれた母親たちからのサポート	
	自分だけではないという気づき	同じ立場の母親の悩みや苦勞の気づき	細谷, 2019: 松浦, 2017 山内, 2017: 一瀬, 2007 潮, 2006
		自分の苦しみと同じものを相手にも感じる経験	
		障害や疾病を相談してくる母親の出現	
		自分だけではないという気づき	
	孤独からの解放	同じ境遇の母親との交流から孤独感の軽減	石井, 2019: 石本, 2014 田邊, 2010
		積極的な親の会への参加	
		同じ境遇の母親からの励ましの言葉	
	家族のサポート	父親が子どもと母親の状況を理解しようとする姿勢	石井, 2019: 田中, 2018 山内, 2017: 松井, 2016
		父親のサポート	
家族の絆を実感			
家族が互いへの思いやりを示す			
子どものことを気遣うきょうだいの存在			
気にかけてくれる周囲の支え	人々のやさしさを感じる体験	石井, 2019: 細谷, 2019 田中, 2014: 田邊, 2010	
	周囲の身近な人からの支えに気づく		
	親身になって支え向き合ってくれる人との出会い		
わが子が周囲に優しくされる体験	わが子が自然に受け入れている体験	田中, 2018: 松井, 2016 田邊, 2010	
	子どもに向けられた周囲の優しさ		
	きょうだいからの大切にしてくれる関わり		
子どもや自分を理解してくれる専門職からのサポート	専門職への相談	石井, 2019: 伊藤, 2018 一瀬, 2007	
	周囲から自分の弱さを受け入れてもらえる体験		
肯定的フィードバック	周囲からの肯定される体験	自分のことを肯定するサポートの存在	細谷, 2019: 山内, 2017
		他者からの肯定的な言葉	
	自身で体験を意味づける	振り返ることで今があると認識	松浦, 2017: 松井, 2016 田中, 2014: 田邊, 2010
		自分がやってきたことを自分なりに意味づける	
		この子がきっかけでつながった出会いに気づく 肯定的変化に気づき意味づけを行う	
擁護される体験	家族が母親の考え方や行動を擁護する	石井, 2019	

リーで構成された。

【子どもへの理解の深まり】では、外からの情報や子育てしながら《子どもの特性や行動の理解》や《子どもの成長を発見》していた。

【子どもから必要とされている感覚】では、〈子どもの状態に対応でき安定させることができた〉や〈子どもの元気な状態が維持できた体験〉といった《子どもの状態を維持できた体験》が抽出された。また、〈子

表3 ポジティブな心理的变化

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	著者
親役割の成長	子どもへの愛情の深化	子どもを愛おしいと感じる思い	田中, 2018; 勝田, 2018
		子育てのやる気と喜び	伊藤, 2018; 山内, 2017
		子どもの大切さを実感	松井, 2016
	親として成長させてくれた子どもの存在	子どものおかげで自分が成長できた実感	石井, 2019; 山内, 2017
		子どもの病気を体験したからこそその成長	江藤, 2004
	親役割の覚悟	親としての自覚の芽生え	細谷, 2019; 伊藤, 2018 入江, 2018; 杉本, 2018 前盛, 2014; 田中, 2014
		家族や命の尊さなど生きる上での真に重要な物事の明確化	
		子どもに関する情報収集や相談する力を取得	
		我が子を育てる決意	
	家族との強い絆の構築	育児の責任を引き受ける覚悟	石井, 2019; 入江, 2018 山内, 2017; 田邊, 2010 奥山, 2009; 小林, 2009
家族の絆の深化			
家族の闘病生活に立ち向かう力の向上			
子育てへの自信	子どもの成長から子育ての手ごたえを実感	子どもとの相互の関係が改善しているという確信	石井, 2019; 細谷, 2019 伊藤, 2018; 田中, 2014
		子どもが育つことに感じる育児への自信	
		子どもが育つことによる子育てへの自負	
	子どもに合わせた関りができた感覚	子どもなりの成長をとらえた関りの実践	田中, 2018; 伊藤, 2018
		自分が対処できるという感覚	前盛, 2014
	母親としての自信の芽生え	母親としての自信の芽生え	石井, 2019; 田中, 2018 伊藤, 2018; 松井, 2016 田邊, 2010; 江藤, 2004
		今後の子育てへの自信	
		母親としての存在意義の実感	
		自分自身の精一杯さに対する自負	
	人間としての成長	自己肯定感の向上	児がかけがえのない存在と認識
確かな自己の成長に対する喜び			
対処能力の向上		自分自身の肯定感を実感	入江, 2018; 田邊, 2010
		物事に対処できる能力の高まり	
		自己表現の拡大	
他助志向の芽生え		自己の人間の成長	細谷, 2019; 石井, 2019 松井, 2016; 田邊, 2010 一瀬, 2007
		他者に対する深い感謝の気持ちから他者に貢献したいという意思	
健康や障害に関する新たな価値観		後輩の力になりたい	細谷, 2019; 入江, 2018 山内, 2017; 田邊, 2010
		障害に対する認識の変化	
		ノーマライゼーションの意識の高まり	
生き方の見直し	生命や健康への価値観の変化	入江, 2018; 山内, 2017	
	生き方の質や生命力、物事の捉え方の深まり		
	当たり前な生活のありがたみへの気づき		
		体験が意義あることと思える	

どもの役に立ったという体験)や〈自分が変化したことで子どもも変わることを実感〉といった自分の行動で子どもの変化を確認でき《子どもにとっての自分の存在に気づく》に至っていた。

【自分のことを理解している周囲の支え】では、同じ境遇の母親からの支えと家族からの支え、周囲からの支えといった大きく3パターンを抽出した。同じ境遇の母親からは、〈同じ境遇の母親と悩みの共有〉や〈同じ境遇の母親と大変な子育て体験の共有〉から《同士から共感を得られた体験》が抽出された。同士との交流は、《孤独からの解放》や《ロールモデルの存在》

となっていた。また、〈同じ立場の母親の悩みや苦勞の気づき〉や〈障害や疾病を相談してくる母親の出現〉から《自分だけではないという気づき》が抽出された。

【肯定的フィードバック】では、他者からの《擁護される体験》や《周囲からの肯定される体験》が抽出された。また、〈振り返ることで今があると認識〉や〈肯定的変化に気づき意味づけを行う〉といった《自身で体験を意味づける》が抽出された。

3. ポジティブな心理的变化 (表3)

健康障害を伴う子どもの母親が、挑戦と後ろ向きの

感情の間の揺れ動くもがき苦悩の結果生じるポジティブな心理的変容であり、【親役割の成長】【子育てへの自信】【人間としての成長】の3つのカテゴリーで構成された。

【親役割の成長】では、〈子どもを愛おしいと感じる思い〉や〈子どもの大切さを実感〉といった《子どもへの愛情を深化》や《親として成長させてくれた子どもの存在》があった。また、〈親としての自覚の芽生え〉や〈我が子を育てる決意〉といった《親役割の覚悟》や《家族との強い絆の構築》が抽出された。

【子育てへの自信】では、《子どもに合わせた関りができた感覚》や〈子どもの成長の実感による子育てへの自負〉〈子どもが育つことに感じる育児の自信〉といった《子どもの成長から子育ての手ごたえを実感》を抽出した。実感により、〈今後の子育てへの自信〉や〈母親としての存在意義の実感〉を得て《母親としての自信の芽生え》があった。

【人間としての成長】では、《自己肯定感の向上》や〈物事に対処できる能力の高まり〉〈自己表現の拡大〉といった《対処能力の向上》を抽出した。また、〈他者に対する感謝の気持ちから他者に貢献したい意思〉〈後輩の力になりたい〉といった《他助志向の芽生え》もあった。また、〈当たり前な生活のありがたみの気づき〉から《生き方の見直し》や〈障害に対する認識の変化〉〈ノーマライゼーションの意識の高まり〉といった《健康や障害に関する新たな価値観》が抽出された。

V. 考察

健康障害を伴う子どもの母親の体験に関する国内の20件の先行文献から、「子どもの健康障害における危機的な出来事や困難な体験時の母親の思い」、「ポジティブな心理的変化の内容」、「その変化の過程で影響したこと」を抽出した結果、10のカテゴリーでPTGプロセスは構成された。

1. 子どもの健康障害における危機的な出来事や困難な体験時の母親の思い

健康障害を伴う子どもの母親は、子どもの健康障害に関する人生を揺るがす出来事を前提に、【手探り状態の中での挑戦】、【子どもの将来の見通しに関する苦悩】、【やりきれない思いの中での自責の念】といった前向きな感情と後ろ向きの感情のアンビバレントな情緒的苦痛が生じていた。

子どもが重大な病気と診断されることで、親は衝撃

を受ける。Drotar (1975) らが先天性奇形をもつ子どもの誕生に対して、その親の反応をショック、否認、悲しみと怒り、適応、再起の5段階に分類しているように、本調査においても最初の危機反応や持続する感情と反応が抽出された。これは、我が国の文化に限らず、健康障害を伴う子どもをもつ母親の共通する反応と推察された。

宅 (2016) は、がん体験者のPTGを明らかにした上で、トラウマとしてのがん体験は、震災や事故、暴力、戦争体験などのトラウマとは異なる特徴を指摘している。健康障害を伴う子どもをもつ母親もストレスナーの特徴は、生命の危機だけでなく、母親の自責の念など複雑な性質をもつ。原因が外的環境から生み出される事故や暴力と違い、〈早産したことへの負い目〉や〈これまで行ってきた子育てへの自責〉といった妊娠継続不可能に伴う出産や発病において自責する場合もあり、トラウマ体験の生起に母親自身の関与がある。また、急性トラウマ体験の多くは、過去を振り返る性質をもつものに対して、健康障害を伴う子どもをもつ母親においては、《先の見えない不安》や《見通しに関する動揺》といった将来の後遺症などに対する恐怖を伴い、未来を見る性質をもつなど複雑な特徴があることが明らかになった。

2. ポジティブな心理的変化の過程で影響したこと

PTG生起に影響した要因の一つに【自分のことを理解している周囲の支え】が抽出された。一般的にも現代の母親は、核家族化、実家や近隣からのサポートが得にくい育児環境という時代背景から、育児において負担や不安を抱えながら子育てをする状況である。加えて、予期せぬ子どもの健康障害は、育児負担や不安を相乗させると考える。そのような中、同じ境遇の母親の存在は孤立感を軽減し、自身の体験を話し共感してもらうことだけでなく、相手の苦しみも知ることによって自分だけではないという気づく機会となっていた。一瀬 (2007) は、私だけでないという強さを感じると、自己を振り替えられるようになると述べているように、自分だけではないという気づきは、他者と自分を比較し自らを客観視でき、自身が行っている育児を肯定させる力となり、これまでの経験を振り返り意味づける上での重要な要素となっていたと考える。

また、《周囲から肯定される体験》や《擁護される体験》といった【肯定的フィードバック】も影響要因として抽出された。PTGの先行研究において、がん

患者の遺族へは情緒的サポートの関連の報告はあるが（武富，2018）、多くはどのようなサポート内容（情緒的・所属的・情動的・道具的・評価的）が影響しているかは明らかになっていない（Kim MY, 2017; Wei Z, 2015）。健康障害を伴う子どもの母親においては、同士の支え合いから得られる肯定、フィードバック、社会的比較などから、評価的サポートも重要な関連要因だと示唆された。

Calhoun LG (2006) は、PTGは文化的背景が影響すると述べている。例えば、日本の子育て文化や欧米の個人主義に対する日本人の集団主義傾向や宗教的な思考といった文化の違いを指す。そのような考えの中で、近藤（2012）は、謙遜の中に成長をみるような文化背景を持つ日本では、まわりとのバランスのなかで顕在化する側面が強いので、まわりにいる人間が、本人の小さな変化を見逃さず、注意深い観察のもとで、状況に応じたフィードバックを丁寧に重ねることが、本人の成長の自覚や自信につながると述べている。つまり、健康障害を伴う子どもをもつ母親においては、【手探り状態の中での挑戦】という不確かな育児の中で、自分の子育てが間違っていないといった承認を得られるような周囲からの【肯定的フィードバック】と【子どもへの理解の深まり】や【子どもから必要とされている感覚】といった子どもから直接的に得る確証は、もがきから脱する糸口となっていると考える。

3. ポジティブな心理的变化の内容

前向きな感情と後ろ向きの感情の間の揺れ動くもがきを体験した結果、【親役割の成長】【子育てへの自信】【人間としての成長】に達していた。Tedeschi LGら（2004）の提唱したPTGを構成する5因子のうち、「新たな可能性」「人生への感謝」「人間としての強さ」「他者との関係」の4つが確認できた。

5因子のうちの「新たな可能性」として、【親役割の成長】や【子育てへの自信】といった親として成長させてくれた子どもの存在や母親としての自信の芽生えなど、その出来事なしではありえなかったような変容や新しい道筋が生じていた。「人生への感謝」としては、【人間としての成長】の構成要素である《生き方の見直し》があてはまり、〈当たり前な生活のありがたみへの気づき〉といった日々の尊さに対する気づきが確認できた。「人間としての強さ」は、【人間としての成長】の構成要素である《自己肯定感の向上》《対処能力の向上》があてはまり、〈確かな自己の成長に

対する喜び〉や〈物事に対する対処能力の高まり〉といったことをアンビバレントな情緒的苦痛の過程で、自分に対する自信が芽生え、自分の成長を実感することが確認できた。「他者との関係」は《他助志向の芽生え》があてはまり、〈他者に対する深い感謝の気持ちから他者に貢献したいという意思〉や〈後輩の力になりたい〉といった人に対して思いやりの心を持つようになることが確認された。

一方で、「精神的（スピリチュアル）変容」抽出されなかった。この「精神的（スピリチュアル）変容」は、スピリチュアルな事柄への理解の深まりに代表され、信仰心が強くなるなどの宗教上の変容に関する体験も含まれる（宅，2010）。国内の褥婦や小児がんを経験した子どもの親を対象とした調査においても「精神的（スピリチュアル）変容」の低さを認めており（鈴木ら，2019；入江ら，2018）、欧米のキリスト教文化に対して日本人の仏教や無宗教の多い文化においては、抽出されないのが特徴である可能性がある。

VI. 結論

健康障害を伴う子どもの母親のPTGのプロセスは、子どもの健康障害に関する危機的な出来事の後に、【手探り状態の中での挑戦】、【子どもの将来の見通しに関する苦悩】、【やりきれない思いの中での自責の念】といった挑戦と後ろ向きの感情の間の揺れ動くもがきが生じる。そのもがきの過程で、【子どもへの理解の深まり】【子どもから必要とされている感覚】といった直接的な確証と、【自分のことを理解している周囲の支え】【肯定的フィードバック】の影響により、【親役割の成長】【子育てへの自信】【人間としての成長】といった母親としてのポジティブな成長や人間としての成長の心理的な変容体験を経た。

孤立しやすい子育て環境や子育てに関する不確かさを抱く現代の日本の社会的背景や謙遜の中に成長をみるような文化は、子どもが健康障害を伴う危機的な出来事が生じた場合、PTGのプロセスに影響を及ぼすことが示唆された。

VII. 今後の課題

PTGが生起されることによって、その後のストレスへの準備性が高まることや、間接的に心理的well-being（安寧・幸福）に影響を及ぼすとされる（宅，2016）。よって、子どもの健康障害があっても育児を継続する母親にとって、本研究で得たポジティブな心

理的变化の過程で影響したことを組み入れた支援プログラムを検討していく必要がある。

引用文献

- Aftyka A, Rybojad B, Rosa W et al.(2017). Risk factors for the development of post-traumatic stress disorder and coping strategies in mothers and fathers following infant hospitalisation in the neonatal intensive care unit. *Journal of Clinical Nursing*, 26, 4436-4445.
- Aftyka A, Rozalska-Walaszek I, Rosa W(2017). Post-traumatic growth in parents after infants' neonatal intensive care unit hospitalisation. *Journal of Clinical Nursing*, 26(5-6), 727-734.
- Alon R(2019). Social support and post-crisis growth among mothers of children with autism spectrum disorder and mothers of children with down syndrome. *Research in Developmental Disabilities*, 90, 22-30.
- Callhoun LG & TedeschiRG(2006). 宅香菜子, 清水研監訳(2014). 心的外傷後ハンドブック 耐え難い体験が人の心にもたらすもの. 医学書院.
- Drotar, D., Baskiewicz, A., Irvin, N., Kennell, J., & Klaus, M. (1975). The adaptation of parents to the birth of an infant with a congenital malformation: A hypothetical model. *Pediatrics*, 56(5), 710-717.
- 江藤節代, 松永千絵, 西敬子(2004). 思春期の慢性腎疾患患児の親の体験に関する研究. *家族看護学研究*, 10(1), 32-38.
- Forinder U, Norberg AL(2014). Posttraumatic growth and support among parents whose children have survived stem cell transplantation. *J Child Health Care*. 18(4) : 326-335
- Holditch-Davis D, Bartlett TR, Blickman AL(2003). Posttraumatic stress symptoms in mothers of premature infants. *J Obstet Gynecol Neonatal Nurs*, 32(2), 161-167.
- Hulmann SE, et al.(2014). Posttraumatic Growth and hope in parents of children with cancer. *J Psychosoc Oncol*. 32(6), 696-707.
- 原田正文(2006). 子育ての変貌と次世代育成支援。－兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防－. 名古屋大学出版会.
- 細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子(2019). 災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための支援の検討(第2報) 発達障害児の親の地域社会生活におけるレジリエンス. *千葉看護学会誌*, 24(2), 43-53.
- Irie W, Shiwaku H, Taku K, et al.(2019). Roles of Re-examination of Core Beliefs and Rumination in Posttraumatic Growth Among Parents of Children With Cancer: Comparisons With Parents of Children With Chronic Disease. *Cancer Nursing*, 28.
- 入江亘, 塩飽仁, 名古屋祐子(2018). 小児がんを経験した子どもの親の心的外傷後成長を構成する要素－慢性疾患をもつ子どもの親との対比－. *小児がん看護*, 13(1), 17-27.
- 石本陽子, 二宮一枝(2014). 自閉症スペクトラム児の母親のストレス関連成長促進要因. *国際ナショナルNursing Care Research*, 13(4), 77-83.
- 石井裕子(2019). 広汎性発達障害児の母親が自己肯定感を抱く経験とそのプロセス. *小児保健研究*, 78(3)228-236.
- 一瀬小百合(2007). 障害のある乳児をもつ母親の苦悩の構造とその変容プロセス 治療グループを経験した事例の質的分析を通して. *小児保健研究*, 66(3), 419-426.
- 伊藤由香, 小林恵子(2018). 子どもの発達障害の特性を指摘された母親の子育てにおける体験 発達障害の特性を指摘されてから専門機関の継続的な支援を受けるまで. *日本地域看護学会誌*, 21(2), 22-30.
- Kim MY(2017). Factors Influencing Posttraumatic Growth in Mothers of Children With Cancer. *J Pediatr Oncol Nurs*, 34(4), 250-260.
- 勝田仁美(2018). 排泄障害のある学童と親が排泄問題に向かう体験の構造. *家族看護学研究*, 23(1), 26-38.
- 近藤卓(2012). PTG心的外傷後成長 トラウマを超えて. pp. 179, 金子書房.
- 松浦衣莉(2017). 子どもが乳幼児期に長期入院した経験をもつ親の体験－子どもと共に過ごす体験に焦点をあてて－. *日本小児看護学会誌*, 26(1), 144-151.
- 前盛ひとみ, 日下隆(2014). NICU入院児の母親における母親意識の発達. 香川大学教育学部研究報告,

141(1), 67-78.

- 松井藍子, 大河内彩子, 田高悦子, 他(2016). 発達障害児をもつ親の会に属する母親が子育てにおける前向きな感情を獲得する過程. 日本地域看護学会誌, 19(2), 75-81.
- 松本鈴子, 横尾京子, 岡村仁, 他(2006). 産後1か月における出産に伴う母親の心的外傷後ストレス出現 - NICU入院児の母親と健常新生児の母親の比較 -. 広大保健学ジャーナル, Vol.6(1), 2006.
- Nakayama N, Mori N, Ishimaru S, et al.(2016). Factors associated with posttraumatic growth among parents of children with cancer. *Psycho-oncology*, 26(9), 1369-1375.
- 新田紀枝, 藤原千恵子, 石井京子(2012). 口唇口蓋裂患児を育てている母親の困難な出来事とレジリエンス. *家族看護学研究*, 18(1), 13-24.
- 大日向雅美(2002). 育児不安とは何か その定義と背景 発達心理学の立場から. *こころの科学*, 103, 10-15.
- 奥山朝子, 森美智子, 小林八代枝, 他(2009). 学童期以上の小児がん患児・家族の心理社会的状況 - 闘病体験から得られた成長に着目して -. *小児がん看護*, 4, 15-26.
- Shahirose S Premji, Gianella Pana(2017). Mother's Level of Confidence in Caring for Her Late Pre-term Infant: A Mixed Methods Study. *Journal Clinical Nursing*, 27(5-6).
- 杉本裕子, 松倉とよ美, 村田敦子, 他(2019). 超重症児をもつ母親のNICU退院から小児専門病院受診に至るまでの体験. *人間看護学研究*, (16), 9-17.
- 鈴木明日香, 入山茂美, 小幡さつき, 他(2019). 日本人褥婦における日本語版外傷後成長尺度の妥当性と信頼性の検討. *母性衛生*, 60(1), 31-36.
- Tedeschi, R. G and Calhoun, L. G(2004). Posttraumatic growth: Conceptual foundation and empirical evidence. *Psychological Inquiry*, 15, 1-8.
- 宅香菜子(2010). がんサバイバーのposttraumatic

Growth. *腫瘍内科*, 5(2), 211-217.

- 宅香菜子(2016). 「PTGの可能性と課題」. 金子書房.
- 武富由美子, 田渕康子, 熊谷有, 他(2018). 一般病棟で家族を失ったがん患者遺残の心的外傷後成長 (posttraumatic Growth : PTG) の特徴と関連要因. *Palliative Care Research*, 13(2), 139-145.
- 田中利枝(2014). 早産児を出産した母親が母乳育児を通して母親としての自己を形成していく過程. *母性衛生*, 55(2), 405-415.
- 山内文, 中山美由紀, 岡本双美子(2017). 早期新生児期に手術を受けた子どもの母親が認知する生後1年間の家族レジリエンス. *家族看護学研究*, 22(1), 26-36.
- 田中美央, 西方真由美, 宮坂道夫, 他(2017). 重症心身障害児の反応に関する母親の内面的支え体験. *新潟大学保健学雑誌*, 14(1), 69-78.
- 田邊美佐子, 神田清子(2010). 造血幹細胞移植を受けた子どもを持つ母親が療養体験を意味づけるプロセス. *日本看護研究学会雑誌*, 33(2), 23-33.
- 牛尾禮子(1998). 重症心身障害児をもつ母親の人間の成長過程についての研究. *小児保健研究*, 1, 63-70.
- Wei Zhang, Ting Ting Yan, K Louise Barriball(2015). Post-traumatic Growth in Mothers of Children With Autism: A Phenomenological Study. *international journal of research and practice*, 19(1), 29-37.
- Yonemoto T, Kamibeppu K, Ishi et al. (2012). Post-traumatic stress symptom (PTSS) and post-traumatic growth (PTG) in parents of childhood, adolescent and young adult patients with high-grade osteosarcoma. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 17, 272-275.
- 横田妙子, 佐々木聡子, 内藤直子(2014). 低出生体重児をもつ母親の抑うつと育児困難感の推移と関連. *香川大学看護学雑誌*, 18(1), 25-34.